

## (2) 東北



東北地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

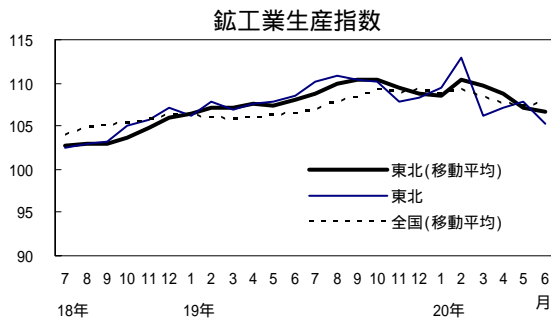
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年5月）	今回（平成20年8月）	
景況判断	持ち直しの動きに足踏み	弱含み	
個人消費	やや弱含み	弱含み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

電子部品・デバイスは、国外向けコネクタが好調に推移したものの、国外向けモス型半導体集積回路や国内向けシーモスセンサなどが低調に推移したことから、減少している。食料品・たばこは、冷凍食品、ビール、水産加工食品などが低調に推移したことから、減少している。一般機械は、アジア向け半導体製造装置や特殊綱切削工具（ドリルやギアカッターなど）が低調に推移したことから、減少している。情報通信機械は、輸出向けのカーナビが好調に推移したものの、入出力装置が前期の反動により低調であったため、減少している。化学工業は、医薬品が好調に推移したものの、定期修理のあった石油系芳香族やプラスチックが低調に推移し、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

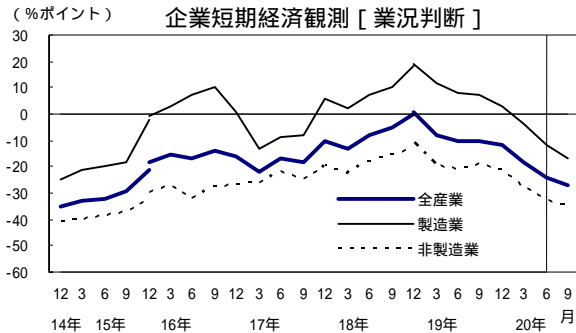
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	17.9	1.8	2.1	10.6	11.6
食料品・たばこ	11.8	2.2	3.6	5.7	4.4
一般機械	10.1	5.5	7.1	6.8	3.9
情報通信機械	9.6	14.3	6.0	1.0	8.9
化学工業	7.0	1.7	1.5	2.0	0.5
鉱工業	100.0	0.8	2.6	4.3	0.8

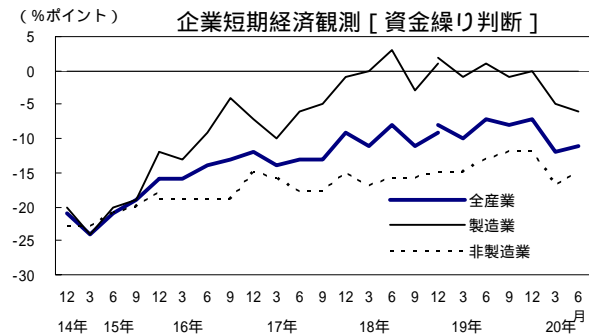
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

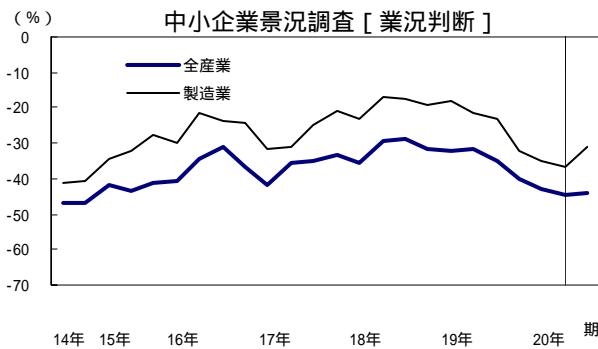
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

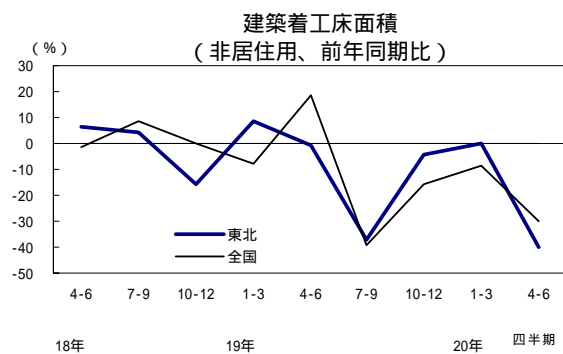
「8月からの大型店開店に伴い予想される流通戦争に備え、既存の百貨店や大型店では足元の広告を控えている。また、不動産や自動車販売などの企業が広告費を大幅に削減しており、広告業界を取り巻く環境は一層厳しさを増している(広告業協会)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	34.3( 5.6)	24.6(2.4)
製造業	56.3( 7.2)	32.2(3.2)
非製造業	9.9( 0.1)	1.8(0.8)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

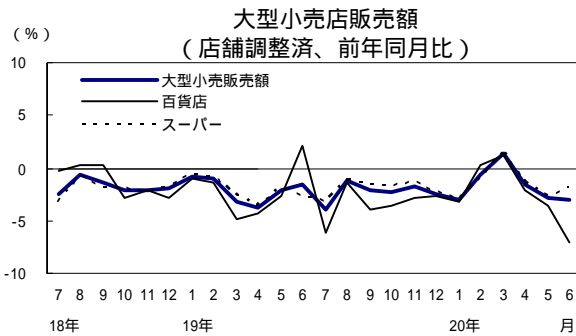
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、天候不順による低温の影響で、春・初夏物衣料が振るわず前年を下回った。5月は、物産展など催事により飲食料品の生鮮食品、菓子などに動きがみられたものの、天候不順などから衣料品全般が伸び悩み、前年を下回った。6月は、飲食料品では中元ギフトや高級菓子などに動きがあったものの全体的に振るわず低調であり、また衣料品も前年は6月末だった夏のクリアランスセール初日が今年は7月だったことから、前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の7月の売上高は前年同月比で2.4%減となっている。

スーパーは、全般的に肉、酒、6月は加工食品など飲食料品の動きは堅調であったが、衣料品は全般的に天候不順等のため春・初夏・夏物が振るわず、家庭用品も6月の大型テレビなどの家電は好調だったものの、全般的に振るわなかったため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

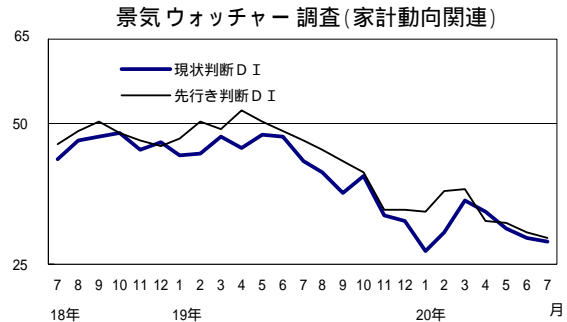
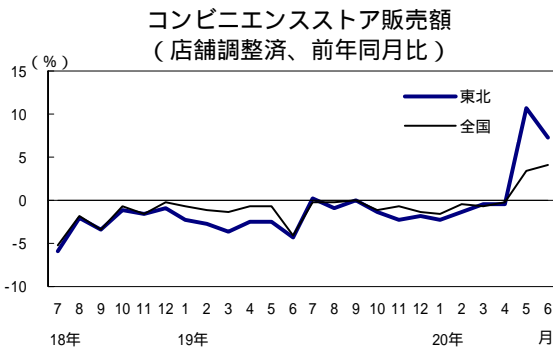
「来客数は前年比3%の伸び、売上は前年並みを維持しているが、ナショナルブランドと安価なプライベートブランドの売れ方の違いがはっきり出てきている。客の財布のひもが固くなり、安い商品に志向が切り替わってきている(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	2.5	2.1	0.9	2.5
百貨店	4.0	3.0	0.7	4.3
スーパー	2.0	1.8	1.0	1.9
コンビニ	0.3	1.8	1.3	5.8
景気ウォッチャー	40.9	35.7	31.4	31.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

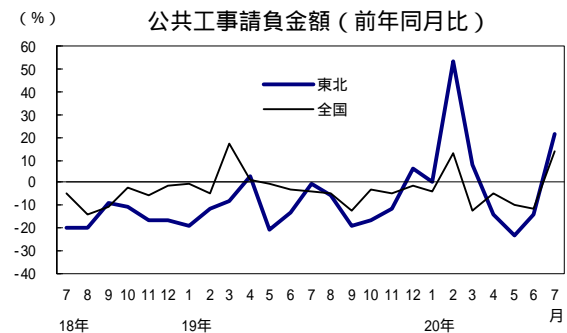
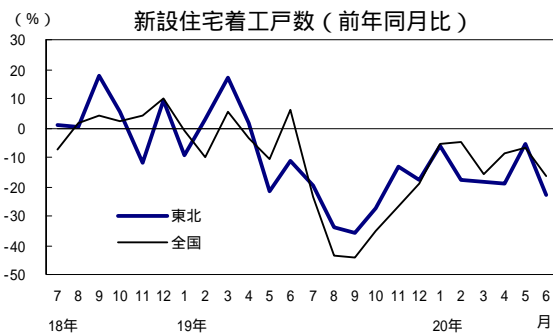
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

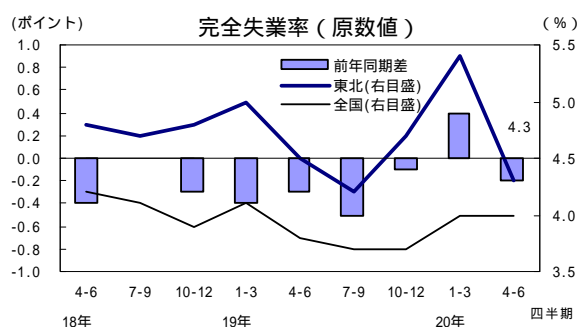
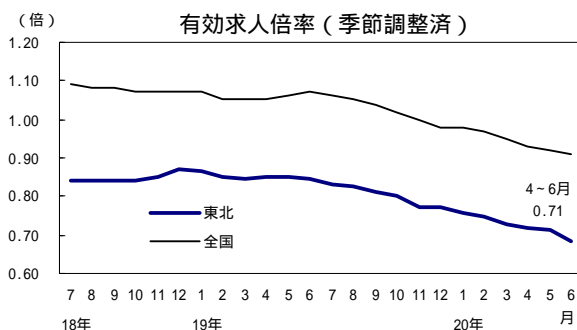
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



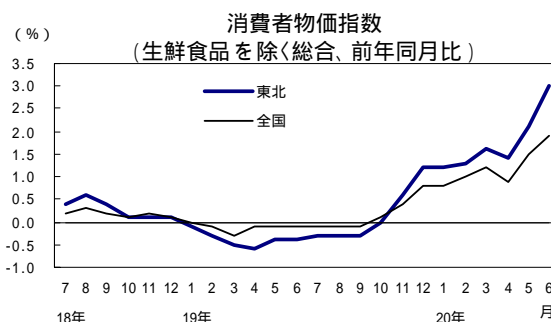
#### 景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

「メーカーの業績悪化により求人数が減少傾向にある（人材派遣会社）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は増加したものの、負債総額は減少している。  
7月に倒産件数が大幅に増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	218	242	264	291	100
(前年比)	14.5	8.0	13.3	16.4	38.9
負債総額	611	810	951	982	373
(前年比)	24.6	18.9	4.8	30.4	54.5



#### 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

##### <現状>

・食の安全や安心への関心が高まるなか、特にひき肉関係は偽装事件があり、売上に影響している。さらに物価高が加わり非常に厳しい状況にある（食料品製造業）。

##### <先行き>

・建設業やスーパー、機械部品製造業で、今後2～3か月の間に100人～200人規模の解雇を実施する企業がみられる（職業安定所）。

